消 防 学 校 だ よ り

令和４年1月･2月号

発行年月日　令和４年２月 24 日
発　　行　宮崎県消防学校

九州ブロック消防学校教官研修会

１月 12 日（水）、九州ブロック消防学校教官研修会を本県で開催しました。（九州各県の輪番制で毎年２日間の日程で実施。今年度は本県が当番県）

講義は、UMK テレビ宮崎　アナウンサー　南出　雅之氏に「放送で感じた「伝え方」のヒント」と題して、アナウンサー生活 40 数年の経験を踏まえ講義をして頂きました。

その後、県防災庁舎へ移動し、県危機管理課　日隈主幹に本県の危機管理体制の説明をして頂き研修会は終了しました。

今年は１日研修、また、来県できない県へはライブ中継で実施し、タイトなスケジュールではありましたが、今後の教育訓練に役立つ内容の研修会になったと思います。

「九州は一つ」を合い言葉に、今後とも九州各県と連携を図り、質の高い消防職員・団員への教育訓練を実施してまいります。

PSLS コース

１月 14 日（金）、宮崎大学 PSLS コースを実施しました。

宮崎大学医学部の金丸　勝弘医師より PSLS 概論、宮崎の脳卒中プロジェクトの講義を受けた後午後から部分トレーニング、シナリオトレーニング等の実技トレーングを行い、コース最終時限でコース認定のための効果測定を行い受講者全員が認定を受けました。

第 22 期火災調査科（入校）

１月 17 日(月)、火災調査科に県内９の消防局、本部から 15 名が入校しました。

実施期間２週間の間に、調査書類の作成、火災原因調査関係法規、鑑定など火災調査に関する専門的なカリキュラムを行います。

入校式

総代　石本　三由記（延岡市）

火災調査科（微小熱源）

1 月 18 日(火)、都城市消防局から吉井　剛司令補に来ていただき、微小燃焼について講義と実験をしていただきました。

微小熱源による火災は、燃焼器具や電気器具による火災とは異なり、出火箇所に発火源となるものが残らないことがほとんどであり、発火源と思われるものを物的証拠として追跡することの困難性を、講義と実験による検証で学びました。

火災調査科（ストーブ・ガステーブル火災鑑識要領）

1 月 19 日(水)、都城市消防局から藤村　修平司令補に来ていただき、機器の使用立証のための講義と実習を行いました。

ストーブ、ガステーブルを分解した後、組立し、構造、作動原理、安全装置の原理を理解するとともに、焼損したガステーブルを見分し、使用立証するための調査要領を学びました。

火災調査科（各種火災実験と鑑定の概念・見分要領）

1 月 25 日（火)、県警科学捜査研究所にて工学鑑定官の方から火災調査について講義を受けました。

居室を模した建屋に実際に火を付け、燃焼状態を確認した後に、焼けの方向や、焼け方などを見ながら鑑定の概念や見分要領を学びました。

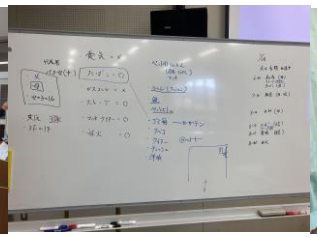
また、分電盤、配線を作成し短絡痕の確認を行いました。電気配線類は、絶縁被覆といって電気を通しにくい塩化ビニールやゴムなどを巻いて中の導線同士が接触しショートするのを防止した構造になっています。ところが被覆が損傷したり熱により焼失した場合、導線同士が接触してしまいショートが発生し、その部分に球形の痕ができます。この現象は、火災の原因ともなり通電していた立証ともなります。

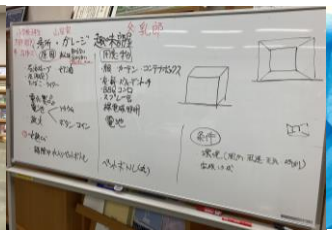
燃焼経路の確認

通電火災

火災調査科（シミュレーション準備）

火災調査のブラインド訓練を 2 班に分け実施するため、それぞれ、その対象物に住む家族構成や生活環境、火災に至るまでの背景などしっかりとしたシナリオ造りをし、過去事例等を交え、実践的な火災調査が出来るように綿密な打ち合わせを行いました。





火災調査科（シミュレーション）

他の班がそれぞれ想定した現場に対し、覚知、現着から鎮火までの消防活動を行うとともに、火災原因調査を行いました。

1 班想定訓練
（2 班対応）

調査

火災状況見分書、実況見分書、鑑識見分調書、質問調書、火災原因判定書作成
2 班の導き出した調査結果は・・・

結論・・・

放火、タバコ、石油ストーブについて考察した結果、放火の可能性は極めて少なく、タバコの可能性は少ないが、石油ストーブについては十分に可能性があり、実況見分調書及び質問調書とも矛盾がない。
よって本火災は、所有者夫婦が灯油と間違えてガソリンを石油ストーブに給油し、１０時０５分ごろに出火したものと判定する。（※原因は判定書記述のとおりでした。）

2 班想定訓練
（1 班対応）

父親の作業部屋でテスト用紙を燃やす息子

火災状況見分書、実況見分書、鑑識見分調書、質問調書、火災原因判定書作成
1 班の導き出した調査結果は・・・

結論・・・

本火災は所有者の息子の山田太郎が金属製の缶にテストの答案を入れてチャッカマンを使用して燃やした結果、延焼したテストの答案の飛び火が意図せず付近の着火物に類焼し、付近の収容物に燃え広がったものと判定する。（※原因は判定書記述のとおりでした。）

将来の火災を防止し、消火活動の対策に必要な基礎資料等あらゆる情報を収集することを目的に行う火災調査は、消防機関にとって重要な分野です。今回、消火活動から活動を行ったことで、消火活動を行いながらも火災原因調査を考慮しつつ、現場を読む力、焼け跡や臭気による根拠に基づく想像力を働かせることが重要だと理解できたと思います。

火災調査科（修了）

1 月 28 日(金)、研修後半は、新型コロナ感染症拡大に伴い、学校生活にも様々な制限が掛けられましたが、学生の教育訓練への真摯な取組により、研修の目的を達成し無事終了しました。

警防・特殊災害科(入校)

2月1日(火)、県内8消防局・本部から12名の学生が入校しました。

実施期間約3週間、火災防ぎょ活動や安全管理、CBRNEなど警防活動、特殊災害活動について専門的な研修を行っていきます。

新型コロナ感染症の拡大に伴い様々な制限の中での研修となりますが、各々目的をしっかりと持ち3週間の研修を乗り切ってもらいたいです。

総代　釘元　良治　（宮崎市）

警防・特殊災害科（警察の初動対応）

2月2日（水）、宮崎県警察本部警備部警備第2課に協力いただき、警察組織の災害時の初動対応について講義及び災害対応資器材の展示をしていただきました。

本県も、南海トラフを震源域とする巨大地震への備えが急務となる中、大規模な災害時、県内の消防組織の組織力のみでは対応困難となる場面が多数発生することは容易に予測できます。県内の防災関係機関間で顔の見える関係を構築し、現場活動隊員のスムーズな活動実現のために、この様な機会がもっと増えると良いと思います。

警防・特殊災害科（呼吸保護具の諸元と取扱整備）

2月7日(月)、株式会社重松製作所　郡　慎司所長に各種呼吸保護具等の説明と取扱いを講義していただきました。

現代の消防活動には欠かせない資器材である呼吸用保護具は各消防局・本部に必ず配備してある資器材です。

諸元を再確認し、適切な管理と運用に心掛けてもらいたいと思います。

警防・特殊災害科(怪我防止と身体管理)

2月8日(火)、株式会社エクセルの山田　義徳講師に、身体管理と怪我防止について講義と実技をしていただきました。

第一線で活動する消防職員にとって、災害に対する知識と、それに対応する技術の向上はもちろんですが、その知識、技術を生かすためには、実行できる身体が必要です。

消防のプロとして、自らの身体管理と、怪我をしにくい身体の造り方を学びました

警防・特殊災害科（特別研修）

２月８日(火)、消防大学校　阿部　誠　助教授に特殊災害対策及び安全管理について講義していただきました。
講義は、NBC・爆弾テロ災害に消防が対処する根拠として国民保護法第９９条第７項、消防組織法第４４条第５項に基づいている事をはじめ、放射性物質や放射線、生物、化学災害時の消防活動について、重点的に話をしていただきました。

（写真、前列中央　消防大学校　阿部　誠　助教授）

警防・特殊災害科（指揮訓練・図上訓練）

２月９日(水)、令和３年度に消防大学校警防科へ入校した　西諸広域行政事務組合消防本部　若松　洋平消防司令補を講師に迎え、指揮訓練、図上訓練を実施しました。
訓練補助　岡原　由典消防士長　　村川　慎太郎消防士
訓練は、ひむか寮を出火建物と見立て、関係者役からの聞き取りや、現示旗での状況把握をしながら実践的な訓練を行いました。

警防・特殊災害科(神経剤解毒剤自動注射器)

２月４日(金)～９日(水)間に３時間、神経剤解毒剤自動注射器の講習を実施しました。
「化学災害・テロ時における解毒剤及び自動注射器の役割、メカニズム、使用方法を正しく理解し、説明できる。」、「使用判断モデルについて習熟し、確実に使用の要否の判断を行う事ができる。」、「個人防護具を着装した上で、安全に正しく自動注射器を使用する事ができる。」、以上３項目を達成目標として実施しました。

警防・特殊災害科（特別研修）

２月 10 日(木)、京都大学防災研究所　附属地震予知研究センター　海溝型地震研究領域　助教　山下裕亮博士から「宮崎県における地震発生メカニズムについて」と題して御講義いただきました。
講義は、地震とは・・・から始まり、地震の規模の判断は、揺れの大きさだけでなく、揺れの長さに着目する事。大きさだけに目が向きがちだが、長さが重要である原理から話していただき、津波発生原理、地震情報の受け取り方から等、南海トラフ地震・日向灘地震、地震発生後の対応で気をつけることを含め、地震のメカニズムについて専門的に学びました。
※京都大学防災研究所附属地震予知研究センター宮崎観測所
　所在地　宮崎市加江田

警防・特殊災害科（災害救助犬について）

2 月 16 日(水)、NPO 法人　九州災害救助犬協会の方々に来ていただき災害救助犬について学びました。

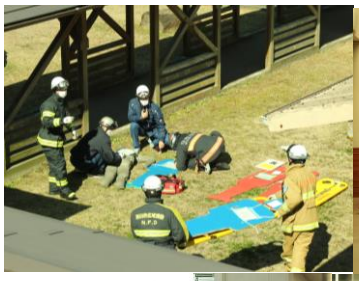
災害救助犬とは、地震や台風、土砂崩れなど災害で行方不明になっている人を優れた嗅覚で捜索するため特別に訓練された犬たちです。人命救助を使命とする捜索活動は、きわめて慎重な判断が要求される現場です、災害時、救助犬を要請した場合の注意点や連携について学びました。

同協会は、災害時に関係官庁と連携を図りながら、組織的な活動を展開し、日頃より災害を想定した救助犬の訓練・育成に努め、救助犬の活動を身近に感じてもらえるよう福祉施設などの訪問も行っています。

警防・特殊災害科（学生企画訓練）

2 月 17 日(木)、約 3 週間の警防・特殊災害科のまとめとして、学生企画訓練を実施しました。

訓練は、各班ブラインド方式で別班に想定を付与し行いました。訓練を効果的に実施するには根拠を持った訓練計画が必要となりますが、それぞれの班が今回の研修で得た知識を盛り込み、効果的な訓練が行えました。



警防・特殊災害科（修了）

2 月 18 日(金)、警防・特殊災害科は、様々な制限の中、無事に全てのカリキュラムを終了しました。

3 月の主な行事予定

3 月 7 日(月)～3 月 18 日(金)　初級幹部科

宮崎県消防学校
担　当:伊豆元　優一(いずもと　ゆういち)
電　話:0985-56-0555　FAX:0985-56-1475
E-mail:shobou-s@pref.miyazaki.lg.jp